

大西 俊成 (ピッツバーグ大学)

【留学先】Heart and Vascular Institute, University of Pittsburgh

【テーマ】心エコー図を用いた心臓再同期療法の評価

【経過報告書】

私は、2010年7月よりアメリカ合衆国ペンシルバニア州にありますピッツバーグ大学循環器内科で留学しております大西俊成と申します。留学してから現時点(2012年1月)で早いもので1年半が経過したことになります。こちらでは、John Gorcsan 教授のもとで“Dyssynchrony”を研究のメインテーマとしておりますが、2D&3D スペックルトラッキング法を用いた心エコー図での評価とともに、新しいソフトウェアを用いた心臓 MRI でのストレイン評価も行なっております。また、世界的な大規模試験における心エコー図データを解析するコアラボ業務も多行なっており、自分たちの計測結果が反映されるのかと思うと感慨深いものがあります。そんな環境の中、現在、大西哲存先生をはじめ4人の同僚フェローと楽しく、忙しく研究生活を過ごしております。

最後に、これまでも貴学会の海外留学助成事業の恩恵を賜り、多くの諸先輩方がそれぞれの留学先で、素晴らしい結果を残されてきたわけでありますが、その助成受賞者の名に恥じぬよう、頑張る所存であります。月並みではありますが、貴学会の御発展をお祈りするとともに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【帰国報告書】

ただいま帰って参りました！私は、2010年7月より2012年6月までアメリカ合衆国ペンシルバニア州にありますピッツバーグ大学循環器内科心エコー図研究室で留学しておりました。2年間の留学はあっという間の出来事でした。アメリカでは、John Gorcsan 教授のもとで“Dyssynchrony”を研究のメインテーマとしておりました。ピッツバーグは、地元のアメリカンフットボールチーム「スティーラーズ」の名にもみられるように、かつては鉄鋼生産の中心地として栄えていましたが、現在はハイテク、保健、教育、金融、サービス業を中心とした街であります。私が住んでいたオークランド地区は、ピッツバーグ大学やカーネギーメロン大学などの高等教育・研究機関や文化施設が集中しており、多くの若い学生や研究者たちで活気にあふれておりました。また、ピッツバーグは、全米で住みやすい場所として必ず上位に挙げられるほど美しく、治安もよい街で、私も普通に夜の外出をしておりました。映画のロケ地として選ばれることもよくあるようで、私のアパートの前で「バットマン」の撮影が行なわれた時には、ただのミーハーな見物人として撮影を見守ることもできました。

さて、本業の研究活動についてであります。Gorcsan 先生のもとにはこれまでも数多くの偉大な先輩フェロー方が留学されており、素晴らしい研究がなされてまいりました。ちょうど、私と同時期に籍を置くこととなった神戸大学の 大西哲存先生とともに「ダ

ブル大西」でやってまいりました。気の合う二人でしたので「ボケとツッコミ」をおりませながら同僚フェローと、楽しく、忙しい 2 年間で過ごすことができました。実際に、私は 3D speckle tracking 法を用いた心エコー図での新しい評価法である Activation Imaging の研究に関わることができました。また、新しいソフトウェアを用いて心臓 MRI での Feature tracking 法によるストレイン評価を行ないました。いずれも、American Heart Association (AHA)、American College of Cardiology (ACC)、American Society of Echocardiography (ASE)の年次集会での発表、そして European Society of Cardiology (ESC)の学術集会では The Best of Moderated Posters に選んでいただくなど、数々の機会を得ることができました。AHA にはいわゆる「地方会」のようなものがあり、そこで発表できたのも留学中ならではのイベントでした。そして、ピッツバーグ大学のエコーラボでは、世界的な大規模試験における心エコー図データを解析するコアラボ業務も多く行なっており、アメリカ、ヨーロッパから毎日 FedEx で送られてくる画像の解析、管理を行なっていました。それらに携わることができたのも貴重な経験でありました。

いろんな場所に旅行するのが大好きな私にとって、ニューヨークやワシントン D.C. へは、たったの 1 時間で、ロサンゼルスやラスベガス、そしてアラスカへも、パスポートなしの国内旅行として気軽に行くことができたのもアメリカ在住日本人だからなし得ることでした。アメリカ留学中には、日本人、外国人を問わず、日本では出会うことのなかった様々な分野の友人ができたこともうれしく思います。

最後になりますが、今回、こうして異国の地での留学生活をとて有意義に過ごし、無事に終えることができたのは、ピッツバーグへの留学を勧めてくださった関西労災病院の上松正朗先生をはじめ、多くの人々の支えがあつてのことです。これらすべての方々に、感謝を申し上げるとともに、海外留学助成の恩恵を賜りました、日本心エコー図学会に、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。